カトリック高松教区報

２０１７年７月２日（第１７９号）
発行所　カトリック高松司教区　広報委員会
〒760-0074　高松市桜町1-8-9
TEL 087-831-6659　FAX 087-833-1484
Email
教区：catholic-takamatsu@takamatsu.catholic.ne.jp
広報：tk-koho@mxi.netwave.or.jp
生涯養成：　yousei@takamatsu.catholic.ne.jp
WEB://www.takamatsu.catholic.ne.jp/

SANCTE SPIRITUS VENI
UNITATEM

マザー・テレサの言葉
望まれないということは、一人の人間が出合いうる最悪の病です。
唯一可能な治療法は、喜んで仕える手と、絶え間なく愛する心です。

ベトナムで初ミサに参加 ①

ヨセフ神父のふさとを訪ねて

ー教区事務局長　西川康廣ー

1800年代に建てられた古い教会

・ベトナム行きの決断

数年前からヨセフ新司祭の誕生の折には、是非ベトナムでの初ミサに参加したいと表明していた。

遡れば2007年、それは私が助祭叙階して間もなくの事であったが、ヨセフ神学生をベトナムから高松教区へ受け入れる準備を進めて来た。すべてが整った後で彼は一人で高松へやって来た。

勿論日本語は全く分らない状態だったので、英語でのコミュニケートだった。

わたしは事務局長として彼に関わりながら、次第に父親の感覚に変わっていったことを覚えている。

日本語学校の手配、公的機関の手続き等々を徐々に進め、彼の日本生活を手伝った。

日本語の勉強は大阪教区のご支援もあり、八尾教会で生活をしながら天王寺のYMCAで日本語の勉強が始まった。あっという間の10年間だった。

日本における父親の心境で、高松教区のために大切な息子を捧げていただいたことに対して、どうしてもご両親にお会いして感謝の言葉を述べたく、ベトナム行きを決断した。

・ハノイ空港到着と最初の3日間

復活祭の翌日、ヨセフ新司祭は、初ミサのために故郷ベトナムへ向けて出発した。

彼の出発を前に、とりあえず私のベトナム出発日と時間とハノイ到着時刻だけをメモにして渡した。その後ベトナムで出会うまで彼との連絡は全く取れなかった。

予定通り5月10日の朝10時30分に関空を飛び経ち、予定通り現地時間夕方5時過ぎにハノイ空港に到着。

空港に来てくれているか不安もあったが、信じて第1到着ゲートに出た。辺りを見回しても彼の姿は見えず、約30分間その場で待つ。

何度か電話を試みたが、彼の2つの電話番号には全く通じなかった。このまま会えなければ、近くのホテルに宿泊するつもりで、とりあえず第2到着ゲートまで歩いて行ったら、そこで彼は待っていてくれた。これがベトナムでの最初のハプニング。

早速彼の甥が運転するタクシーに乗り、ハノイの中心街にあるホテルで宿泊することになった。ここで3泊した。

この間に訪ねたところは、小教区の信徒会長さんのお宅、司教館やいろんな小教区、そして修道院をくまなく回った。

司教館ではハノイの司教との面談も予定にあり、立派な司教館の中で日本の教会や高松教区の現状について話しをかわした。

また司教館を囲むように立っている大神学校についてもゆっくり話しを聴くことができた。

この神学校において、300名ほどの大神学生が学んでいるとのことである。

こうしてヨセフ神父は、目を輝かせて誇らしげに、ここは自分が学んだ学校、青年時代に聖歌隊として奉仕した教会、日曜学校で子供たちに教えた教会等々、話題は途絶えることなく延々と続く。

くまなく随所を案内してくれたが、どの小教区規模も大きく、修道院で生活するシスターの数や年齢層に大いに驚かされた。とにかく元気、元気の一言。

2日目の晩は、ヨセフ神父の友人たち6~7名が、わたしたちを夕食に招待してくれた。自己紹介を聞くと、会社社長、実業家等々社会的地位ある人たちばかりであった。

キリスト者・非キリスト者と異なる人生の道を歩んではいるが、若い頃から互いを尊重し、切磋琢磨して今日の自分がある、切っても切れない絆仲間と言っていた。

ベトナム式の乾杯（ジョッキに注がれたビールは全て飲み干さなければならない）には、少々苦い思いが残ったものだが、飲み干した後は互いに握手を交わし、心から友人として受け入れてくれるのである。

帰りにそこからタクシーで1時間ほど走り、ホテルへ戻ったが、タクシー運転手はわたしたちのローマンカラーに気付き、聖職者であることが分ると、運賃を頂くわけにはいかないと言って、頑なに料金の受け取りを拒否した。教会に対するベトナム人の心の姿勢を垣間見たひと時だった。

それにしてもベトナムの道路は、人、車、バイク、自転車でごった返しの状態。しかし車のへこみや傷が見当たらないのは奇跡に等しいと思った。

わたしは怖くて道路を横断することが出来なかった。とにかくここでの3日間は、ヨセフ神父の若かりし頃の思い出いっぱいの地であった。

・1800年代の教会、小神学校・司教館とコレジオ訪問

ハノイでの3日間はあっという間に過ぎ去り、いよいよハノイを後に南へ向かったが、途中でホテルからパスポートを受け取ることを忘れたことに気づき、一瞬心臓が止まる思いだった。

ホテルからこの件で電話があり、15日、空港へ向かう前にホテルへ立ち寄り、パスポートを受け取ることとした。これがベトナムでの第2のハプニング。

わたしたちは車で200キロほど南へ走った所にある1800年代（フランス統治下）に建てられた古い教会を訪ねた。

一見お寺のようでもあるが木造で大きな教会、メイン教会を中心に周囲には4つの小聖堂が建っていた。

この教会はベトナム戦争時代に被弾したが、奇跡的に残った教会とのこと。それは建築方法と周囲の立地条件に恵まれたようだ。

建物全体は大きく揺れたが、建物の構造上日本の五重塔と似て、振り子状態に揺れて倒壊を逃れることができたとのこと。

『浦上四番崩れ』で松山へ流され、苦難を耐え抜いたキリシタンたちをしのび、その熱き信仰を讃えようと、7月2日（日）午前11時から、愛媛県松山市の衣山墓地で高松教区殉教者祭が行われる。

これまで毎年、徳島・阿南教会で福者結城了雪祭、香川・小豆島で福者高山右近をしのぶ会が行われていたが、今年から四国各地を巡回して殉教者祭を行うことになった。

今回が第1回目で愛媛県での開催となる。

同日は衣山墓地の中央に建つ『長崎キリシタン流謫碑』の前で諏訪榮治郎司教司式の野外ミサが行われる。

浦上キリシタンの聖なる偉業を讃え、この地で亡くなった8人の殉教者をしのぶ。

駐車場の愛光学園から墓地までの道程は参加者の巡礼の道となる。なお当日雨天の場合は道後教会でミサをする。

『浦上四番崩れ』は3千3百人以上もの長崎・浦上村の信徒を全国の20藩へ「一村総流罪」にするという明治政府のキリスト教への大弾圧事件。

明治3年、四国4県へも松山86人、高知116人、高松51人、徳島111人（片岡弥吉著『日本キリシタン殉教史』による）が流配された。

松山ではキリスト教の棄教を促す「説諭」が役人や僧侶、神官らによって厳しく行われた。信徒の1人はこれに屈せず堂々と教えの正しさを述べ反論したという。その他、牢の苦しみ、飢えの苦しみ、さまざまな苦難に耐え、信徒たちは教えを守り通した。

信仰を守りぬいた浦上キリシタンを記念する『長崎キリシタン流謫碑』（松山教会の墓地）

当時松山教会にいたモデスト神父らが協力し、土地を購入して教会墓地を作り、碑文と碑の建設費は山口神父から送られてきた。

このようにして墓地の真ん中に待望の「長崎キリシタン流謫碑」が建立された。

教区の殉教者祭で行われる浦上キリシタンを讃える記念ミサを、今は亡き山口神父も喜んで天国から見てくださっているとだろう。

広い敷地内に司教館、修道院、宿泊施設が建ち並んでいる。シスターたちの温かいおもてなしに心身ともに癒された。次回につづく。

教会、神学校に元気な人々
タクシー運転手も聖職者を尊敬

浦上キリシタンの信仰讃え
7月2日　松山で教区殉教者祭

はばたき

今から百年前、聖母がポルトガルのファティマで三人の牧童たちに出現され、「ロザリオを祈り、イエスとマリアの御心を苦しめる世の罪を償いなさい」というメッセージを与えられました。

その時から、素朴な子供たちは聖母に導かれ、罪人のために計り知れない多くの犠牲と祈りを捧げていくのです。

その英雄的な生涯を見ると、こんな小さな子どもに世界は支えられていたのかと、感無量の思いがします。

神さまはご自分の救いの計画を「知恵ある者や賢い者に隠し、小さい者に現す」のです。

小さい者たちは「こころ」から「こころ」に、神の思いを受け取ります。理屈もこの世の賢さにも邪魔されずに。教皇さまは今年の五月十三日、ファティマのロザリオの聖母大聖堂前で、牧童のフランシスコとジャシンタを列聖しました。

彼らは殉教者以外では最年少の新聖人です。小さな聖人たちは苦しみで清められた心で祈り、神の思いを実現させていったのです。

彼らに倣って、病気や苦難のうちにある人々も、その苦しみによって清められた心で祈る時、その心は神の住まいとなり、世の救いの協力者となることができるでしょう。

8月15日は聖母被昇天祭です。ファティマの聖母のメッセージ、「聖母の汚れなきみ心に全世界を捧げてー委ねてー」いきたいものです。

司祭紹介

東讃ブロック長　桜町担当司祭

松浦信行師

まず、ご出身と家庭でのこと、召命のきっかけなどお聞かせください。

出身は名古屋ということで、よく松浦悟朗司教と間違われたものです。

私の召命のきっかけは、父が一時期、ある修道会で修道生活を送ったということが、少なからず影響したのかなとも思います。

父は若いころプロテスタントの教会に通っていたようですが、最終的にはカトリックの洗礼を受けました。

結婚を機に母も受洗しましたが、その母の信仰心は父をしのぐほどで、母の信仰の在り様も私の召命につながっているのでしょうね。

そんな中で、私の召命の直接のきっかけは、スタインバック神父（メリノール会）が父にかけた「もし、男の子を修道会に送るなら、ご受難会しかありません。あそこにはマテオ・ベッターという聖人がいます」ということばだったようで、私の進路が方向づけられたことばということです。

小学４年生の時、宝塚のご受難会修道院でマテオ神父に会い、「あなたはもうご受難会の志願者です」という言葉が頭から離れず、ご受難会員を目指して歩くことになった訳です。

といっても、ご受難会の小神学生や大学生志願者の受け入れが、ことごとく、その直前に方針変更になり閉ざされた状況に置かれました。

大学は上智大学のスコラ哲学課を修めたのですが、この時も、ご受難会側から、大卒から直接修練に入るという制度を改め、修練前に２年間の社会生活を求められてしまいました。

そこで私は大阪の心斎橋にある、宝石業界で２番目に大きな宝石卸店で、顧客に渡った宝石のアフターケアに当たる仕事に就きました。

29歳でご受難会司祭となり、10年間、会員として働きました。

その頃、東京教区司祭として携わりました。

巡りあわせというのか、東京キャンパスではこの教区のヨセフ神学生にも関わりました。

高松教区とつながるきっかけは

その後、大阪教区に戻り、かわちチームと神戸バイブルハウスで働くことになりましたが、はからずも高松教区に諏訪司教誕生と軌を一にした時期で、諏訪司教が私を招聘者の一人にしてくださったのです。

わたしにとってのストレス解消法はドライブでしたね。

そして、趣味として下手なフルートを吹いています。また、吹けるわけではないのですが、木管楽器を集めることもしています。

ファゴット、クラリネット、オーボエ等。ホルン、トランペット、チェロも。まあ、弾けないので見て楽しんでいます。今回の引っ越しでは運ぶのも大変なので、実家に残してきました。

音楽鑑賞ではクラッシックも好きですが、特に疲れている時は映画音楽などの少し軽めのものに癒されています。

司祭になっての役得は

結婚した弟たちから言われることですが、時には夫婦げんかもあるのでしょう。兄ちゃんはうまいこと逃げたねと言われますから、そうなんだろうなとも思えます。

聖書の気に入ったフレーズは何でしょう

伝道の書１章２節の「空の空、空の空、一切空」ってところです。このフレーズは修練期での聖書週間の時に私の文章がパンフレットに載った言葉ですが、それ以来、その虜になっています。

司牧生活の中で、こだわってもこだわることがなくても同じだという悟りの境地にいたいということでしょうかね。

最後に絵本を利用するきっかけについて話して頂けませんか。

そうですね、影響を受けた２人の司祭がいます。一人は私の修練長が小学生への話のまとめとして一つである梅田に赴任しました。

４つの小教区を３人の司祭で司牧するチーム司牧を行なうことになりました。

ここで７年間司牧した後、東京神学院に赴任することになりました。

７年間、群馬県の那須にあるガリラヤの家で神学生養成に関わり、その後、東京と福岡の神学院が統合された年から２年間東京キャンパスの責任者として携わりました。

巡りあわせというのか、東京キャンパスではこの教区のヨセフ神学生にも関わりました。

高松教区とつながるきっかけは

その後、大阪教区に戻り、かわちチームと神戸バイブルハウスで働くことになりましたが、はからずも高松教区に諏訪司教誕生と軌を一にした時期で、諏訪司教が私を招聘者の一人にしてくださったのです。

神父様のストレス解消法はどんなものですか

わたしにとってのストレス解消法はドライブでしたね。

そして、趣味として下手なフルートを吹いています。また、吹けるわけではないのですが、木管楽器を集めることもしています。

ファゴット、クラリネット、オーボエ等。ホルン、トランペット、チェロも。まあ、弾けないので見て楽しんでいます。今回の引っ越しでは運ぶのも大変なので、実家に残してきました。

音楽鑑賞ではクラッシックも好きですが、特に疲れている時は映画音楽などの少し軽めのものに癒されています。

大阪教区での司牧について

大阪教区に移籍して３年近くになりますが、大阪教区は震災前には新しい司牧の在り方として共同司牧を採り入れようとしていました。

震災でちょっと遅れてはしまいましたが、２年間の準備期間を経て３つの共同司牧共同体が立ち上げられ、私はその中の上での出向でもありました。

住んでみての高松の印象は、とてもしっとりとして、落ち着いていて、住みやすいところだと思います。

私が一時過ごしていた大阪河内という所は皆さんのご存知の様な、今東光のいた元気な土地柄でしたからね。

神父様のストレス解消法はどんなものですか

わたしにとってのストレス解消法はドライブでしたね。

そして、趣味として下手なフルートを吹いています。また、吹けるわけではないのですが、木管楽器を集めることもしています。

ファゴット、クラリネット、オーボエ等。ホルン、トランペット、チェロも。まあ、弾けないので見て楽しんでいます。今回の引っ越しでは運ぶのも大変なので、実家に残してきました。

音楽鑑賞ではクラッシックも好きですが、特に疲れている時は映画音楽などの少し軽めのものに癒されています。

司祭になっての役得は

結婚した弟たちから言われることですが、時には夫婦げんかもあるのでしょう。兄ちゃんはうまいこと逃げたねと言われますから、そうなんだろうなとも思えます。

聖書の気に入ったフレーズは何でしょう

伝道の書１章２節の「空の空、空の空、一切空」ってところです。このフレーズは修練期での聖書週間の時に私の文章がパンフレットに載った言葉ですが、それ以来、その虜になっています。

司牧生活の中で、こだわってもこだわることがなくても同じだという悟りの境地にいたいということでしょうかね。

最後に絵本を利用するきっかけについて話して頂けませんか。

そうですね、影響を受けた２人の司祭がいます。一人は私の修練長が小学生への話のまとめとして一つである梅田に赴任しました。

４つの小教区を３人の司祭で司牧するチーム司牧を行なうことになりました。

ここで７年間司牧した後、東京神学院に赴任することになりました。

７年間、群馬県の那須にあるガリラヤの家で神学生養成に関わり、その後、東京と福岡の神学院が統合された年から２年間東京キャンパスの責任者として携わりました。

巡りあわせというのか、東京キャンパスではこの教区のヨセフ神学生にも関わりました。

高松教区とつながるきっかけは

その後、大阪教区に戻り、かわちチームと神戸バイブルハウスで働くことになりましたが、はからずも高松教区に諏訪司教誕生と軌を一にした時期で、諏訪司教が私を招聘者の一人にしてくださったのです。

神父様のストレス解消法はどんなものですか

わたしにとってのストレス解消法はドライブでしたね。

そして、趣味として下手なフルートを吹いています。また、吹けるわけではないのですが、木管楽器を集めることもしています。

ファゴット、クラリネット、オーボエ等。ホルン、トランペット、チェロも。まあ、弾けないので見て楽しんでいます。今回の引っ越しでは運ぶのも大変なので、実家に残してきました。

音楽鑑賞ではクラッシックも好きですが、特に疲れている時は映画音楽などの少し軽めのものに癒されています。

司祭になっての役得は

結婚した弟たちから言われることですが、時には夫婦げんかもあるのでしょう。兄ちゃんはうまいこと逃げたねと言われますから、そうなんだろうなとも思えます。

聖書の気に入ったフレーズは何でしょう

伝道の書１章２節の「空の空、空の空、一切空」ってところです。このフレーズは修練期での聖書週間の時に私の文章がパンフレットに載った言葉ですが、それ以来、その虜になっています。

司牧生活の中で、こだわってもこだわることがなくても同じだという悟りの境地にいたいということでしょうかね。

最後に絵本を利用するきっかけについて話して頂けませんか。

そうですね、影響を受けた２人の司祭がいます。一人は私の修練長が小学生への話のまとめとして

絵本で分かち合い500冊以上

ある神父と出会い召命の道へ

小学４年生の時、宝塚のご受難会修道院でマテオ神父に会い、「あなたはもうご受難会の志願者です」という言葉が頭から離れず、ご受難会員を目指して歩くことになった訳です。

といっても、ご受難会の小神学生や大学生志願者の受け入れが、ことごとく、その直前に方針変更になり閉ざされた状況に置かれました。

大学は上智大学のスコラ哲学課を修めたのですが、この時も、ご受難会側から、大卒から直接修練に入るという制度を改め、修練前に２年間の社会生活を求められてしまいました。

そこで私は大阪の心斎橋にある、宝石業界で２番目に大きな宝石卸店で、顧客に渡った宝石のアフターケアに当たる仕事に就きました。

29歳でご受難会司祭となり、10年間、会員として働きました。

その頃、東京教区司祭として携わりました。

巡りあわせというのか、東京キャンパスではこの教区のヨセフ神学生にも関わりました。

高松教区とつながるきっかけは

その後、大阪教区に戻り、かわちチームと神戸バイブルハウスで働くことになりましたが、はからずも高松教区に諏訪司教誕生と軌を一にした時期で、諏訪司教が私を招聘者の一人にしてくださったのです。

神父様のストレス解消法はどんなものですか

わたしにとってのストレス解消法はドライブでしたね。

そして、趣味として下手なフルートを吹いています。また、吹けるわけではないのですが、木管楽器を集めることもしています。

ファゴット、クラリネット、オーボエ等。ホルン、トランペット、チェロも。まあ、弾けないので見て楽しんでいます。今回の引っ越しでは運ぶのも大変なので、実家に残してきました。

音楽鑑賞ではクラッシックも好きですが、特に疲れている時は映画音楽などの少し軽めのものに癒されています。

司祭になっての役得は

結婚した弟たちから言われることですが、時には夫婦げんかもあるのでしょう。兄ちゃんはうまいこと逃げたねと言われますから、そうなんだろうなとも思えます。

聖書の気に入ったフレーズは何でしょう

伝道の書１章２節の「空の空、空の空、一切空」ってところです。このフレーズは修練期での聖書週間の時に私の文章がパンフレットに載った言葉ですが、それ以来、その虜になっています。

司牧生活の中で、こだわってもこだわることがなくても同じだという悟りの境地にいたいということでしょうかね。

最後に絵本を利用するきっかけについて話して頂けませんか。

そうですね、影響を受けた２人の司祭がいます。一人は私の修練長が小学生への話のまとめとして一つである梅田に赴任しました。

４つの小教区を３人の司祭で司牧するチーム司牧を行なうことになりました。

ここで７年間司牧した後、東京神学院に赴任することになりました。

７年間、群馬県の那須にあるガリラヤの家で神学生養成に関わり、その後、東京と福岡の神学院が統合された年から２年間東京キャンパスの責任者として携わりました。

巡りあわせというのか、東京キャンパスではこの教区のヨセフ神学生にも関わりました。

高松教区とつながるきっかけは

その後、大阪教区に戻り、かわちチームと神戸バイブルハウスで働くことになりましたが、はからずも高松教区に諏訪司教誕生と軌を一にした時期で、諏訪司教が私を招聘者の一人にしてくださったのです。

神父様のストレス解消法はどんなものですか

わたしにとってのストレス解消法はドライブでしたね。

そして、趣味として下手なフルートを吹いています。また、吹けるわけではないのですが、木管楽器を集めることもしています。

ファゴット、クラリネット、オーボエ等。ホルン、トランペット、チェロも。まあ、弾けないので見て楽しんでいます。今回の引っ越しでは運ぶのも大変なので、実家に残してきました。

音楽鑑賞ではクラッシックも好きですが、特に疲れている時は映画音楽などの少し軽めのものに癒されています。

司祭になっての役得は

結婚した弟たちから言われることですが、時には夫婦げんかもあるのでしょう。兄ちゃんはうまいこと逃げたねと言われますから、そうなんだろうなとも思えます。

聖書の気に入ったフレーズは何でしょう

伝道の書１章２節の「空の空、空の空、一切空」ってところです。このフレーズは修練期での聖書週間の時に私の文章がパンフレットに載った言葉ですが、それ以来、その虜になっています。

司牧生活の中で、こだわってもこだわることがなくても同じだという悟りの境地にいたいということでしょうかね。

最後に絵本を利用するきっかけについて話して頂けませんか。

そうですね、影響を受けた２人の司祭がいます。一人は私の修練長が小学生への話のまとめとして

『典礼奉仕』のために (29)

典礼ひとくち解説　その５

「よりよい聖書朗読を」

高松教区典礼委員長　谷口広海

ミサの中で聖書朗読する人の役割は大変重要なものです。

「聖書が教会で朗読される時には、神ご自身がその民に語られ、キリストはご自身の言葉のうちの現存して、福音を告げられる。したがって、神のことばの朗読は典礼の最も重要な要素である」とミサ典礼書総則（９）にある通りです。

そこで朗読者の心構え、留意すべき点をいろいろ考えてみました。各人の準備に役立てば幸いです。

朗読者の準備

・朗読者はその日の「聖書と典礼」を前もって入手し、下読みを繰り返しておく。読み方等であいまいな点があれば調べる。さらに、自分で聖書を開いて、朗読箇所の前後を読み、内容の理解を深めておく。

・自分で録音して練習すると、自分の欠点がよく分かって良い。

朗読の心構え

・聖書朗読は単なる朗読ではなく、神のことばの宣言である。神のことばを自分の言葉で読み、聴かせるという強い自覚が求められる。

・聖書朗読は読む人が自分一人で分かればよいというものではないから、独りよがりの読み方をしないように。会衆のみなに理解してもらおうとする姿勢が大切。

・ゆっくり読む（早すぎる人が多い。ミサにおいては『歌は早めに、朗読と祈りはゆっくり』が原則）

・間の取り方を工夫する。（句読点、段落など）

朗読の調子

・聖書に相応しい格調のある朗読が望ましい。余りセリフを読むような口調にならないように。かといって、極端な棒読みも困る。

・旧約・新約など書によっておのずと朗読の調子は違うはず。たとえば、預言書は威厳をもって、手紙は話しかけるように等々。（ちなみに『朗読聖書』では、手紙は「です」体で、福音、その他の歴史的叙述は「である」体を基本として約している。）

技術的なこと

・文章の終わり、語尾まではっきり発音すること。

・のどだけで声を出すのではなく、腹から声を出すように。

・たとえマイクの前であっても大きい声を出した方が良い。その際、普通より声の大きい人は少しマイクから離れる。

朗読の姿勢

・本にかぶさって活字を追うだけにならないように。胸を張って堂々とした姿勢で読む。

・両手は軽く台の端に置く。台が低いと感じる人は、聖書を両手で持ちあげてもよい。

（山本良太郎）―「ことばとしるし」No8より―

＊教区典礼委員会勉強会のお知らせ

教区典礼委員会では、毎月第３木曜午後７時から典礼についての勉強会を司教館３階会議室で行っています。どなたでも自由に参加できます。どなたでも奮ってご参加ください。

桜町教会に

８名の集会司式者誕生

6月18日　キリストの聖体の祭日に、桜町教会で、集会祭儀司式者認定式が行われた。

東讃ブロックの養成講座を修了た合田和恵・長谷川聖・和田和男・和田伸・Sr長美喜・井川美佳・佐藤悦朗・中越恵美の８名の信徒が、高松教区長による集会祭儀司式者認定をうけた。

「集会祭儀は、本来主日の司祭不在時に、集会祭儀司式者認定を受けた者が担当司祭の指導の下に司式することが出来る。」とされています。

教会にも少子化と高齢化の波が押し寄せています。近く、司祭不在の日曜日も予想され。その為にも、奉仕の心で準備していきたいと思います。

写真右から
中越　恵美
和田　のぶ
長　美喜（Sr）
井川　美佳
佐藤　悦朗

これからの働きに主の祝福をお祈りください。

中越恵美

＊今回の司祭紹介関連書籍として「続 何故この道を？ 17人の司祭の手記」（パウロ文庫）。本文中、１１４頁から１２５頁まで松浦師の手記が掲載されています。是非お読みください。

聖マルチン病院オープン

皆様のお祈りとご協力に感謝

長く続いていた坂出聖マルチン病院の建築工事がようやく終わり、２０１７年６月１日にグランドオープンを迎えることができました。

２０１２年の10月から新築計画を具体的に検討し始め、約１年半をかけた設計の後、２０１４年春にお着工、２０１４年秋の病棟完成、２０１６年末の外来棟を完成、２０１７年に入ってからの旧病院解体と駐車場などの整備等。

長かったような、でも思い返せばあっという間のような４年８か月でした。大きな事故もなく無事に完成の日を迎えられたのは、何よりも神さまのご保護と、多くの方々のお祈りと具体的なご協力による支え、また暑い日も寒い日も、雨の日もカンカン照りの日も変わらず工事に当たってくださった業者のみなさまのおかげと心から感謝しております。

グランドオープン当日には、建築のあいだ中止していた「健康まつり」を開催し、健康チェックに訪れてくださった患者さまや地域の方々、業者の方々にバザーを楽しんでいただきました。

そして、６月24日にはローマから正式訪問中の当修道会の総長とともに、関係者一同で感謝の集いを開催しお祈りを捧げました。

新しくできた病院は、緑豊かな笠山を背に、坂出市にむかって開かれたやわらかな曲線の建物で、人を包み込む優しさを表しています。

また、この新築を機に７階には緩和ケア病棟（ホスピス）を開設し、カトリック医療機関としてこれまで以上に全人的ケアに当たって参ります。

なお、病院の新築と同時に、修道院も新築され、シスターたちは新しい聖堂で祈りを捧げられるようになりました。ますます力を込めて、教区のためにもお祈りさせていただきます。神に賛美！

Sr・山内留美

グランドオープン当日のバザー風景

教区スケジュール

7月
1日（土）ペトロ岐部と187殉教者　記念日
2日（日）年間第13主日　殉教者祭in愛媛11:00
3日（月）聖トマ使徒祝日
4日（火）LINEAMENTA作業in高松10:00
9日（日）年間第14主日
15日（土）司祭評議会10:00後、諸委員会・団体の集い
16日（日）年間第15主日
17日（月）海の日
22日（土）10:00司祭評議会・13:00宣教司牧評議会・諸委員会活動団体合同会合
23日（日）年間第16主日
24日（月）四国カトリック幼稚園教職員研修会in高知（～25日）
25日（火）聖ヤコブ使徒祝日
26日（水）聖マリアの両親聖ヨアキムと聖アンナ記念日
30日（日）年間第17主日

8月
6日（日）主の変容　年間第18主日　＊日本カトリック平和旬間（～15日）
11日（金）山の日　聖クララおとめ記念日
12日（土）下田武雄師命日（6年）
13日（日）年間第19主日
15日（火）聖母の被昇天祭
20日（日）年間第20主日
21日（月）聖ピオ10世教皇記念日
22日（火）天の元后聖マリア記念日
24日（木）聖バルトロマイ使徒祝日
27日（日）年間第21主日（佐々木光雄師命日）

イエス様探した

鳴門で子どもの集い

小学６年生　堀井紅亜

4月19、20日に子どものつどいがありました。テーマは、「イエス様はどこにいる?」でした。１年ぶりに友達と会えてよかったです。

印象に残っているのはグループワーク１です。その中で最も印象に残ったのは、①病院②施設、③母親です。もう１つあります。しおりを作ったことです。みんな自分の好きな感じで好きな様に作っていました。

楽しかったことは、ウチノ海公園で、「イエス様を探せ」をしたのと、自由時間に遊んだことです。

ドッジボールをしたり、犬がいたので遊んだりしました。とてもかわいかったです。

子どものつどいはとても楽しかったです。久しぶりの友達と会えたのも印象が強かったです。来年は何をするかとても楽しみです。

霊性センターでルルド祭

ネルソン師とロビンソン師によるプレゼン風景

5月12日　33回目のルルド祭は、東かがわ市の高台にある本主の「霊性センター」で行われた。

始まりは、諏訪司教の祈り。続いて、講演。「霊性の精神的・身体的健康に及ぼす影響」と題して、４名の講師が話された。

カトリック医師・阪本一樹氏が40年の体験を。ハロルドG.コーニック著「スピリチュアリティは健康をもたらすか」を基にした「研究」をネルソン神父とロビンソン神父が。最後に、オブレート会ブラッドリ神父が話され午前の部は終わった。

昼食をはさんで、午後は祈り。移設されたマリアさまが微笑んでおられる中で、ロザリオの祈りと司教司式ミサが奉げられました。

夏を感じる日差しの中で、野鳥と共に歌った。その後は、懇親会。恒例のうどんに舌鼓をうちながら、今年のルルド祭は終わった。

桜町教会　中越恵美

大テントの下、ロザリオの祈りをささげる。

ちょっと ひといき

海がある

お父さん　お母さん
あなた方の目を見ていると
あなた方の目の中に
海が見えて来る
ぼくの哀しみ
ぼくの苦しみ
みんな柔らげて
をんでくれる

K・I

新刊書籍紹介

■　テストヴィド神父書簡集
明治の東海道を歩いた宣教師

キリシタン禁令が撤廃された1873年、日本に派遣されたテストヴィド神父は徒歩で東海道を岐阜まで巡り、福音を伝え、御殿場にハンセン病患者のための神山復生病院を創設。

本書は師の18通の書簡から、その活動をたどる。
発行ドン。ボスコ社　中島昭子著
A5判並製　245頁　1,200円＋税

小教区情報

〈桜町教会〉
松浦神父の講座
・毎火曜日
10時　＊え～ほんの会
19時　＊7ステップ（主日の福音の解説）
・毎木曜日
10時30分　＊キリスト教（やさしい教理書）
14時　＊キリスト教入門
・第2・4土曜日
10時　＊聖書とビデオの会（心のともしび）
・第4土曜日
19時　＊教会を語る会
・ヨセフ神父の講座計画中！

〈行事〉桜町教会　聖堂
7月16日（日）
11時＊「平和コンサート」賛美の歌　アンサンブル グ ループ・オルタナティブ
8月5日（土）
15時＊「フルートとチェンバロ　バロック音楽の夕べ」黒川彩子・渡部赤乃
8月13日（日）
10時＊教区主催・平和を祈るミサ。ミサ後、コンサート（おじさんバンド?）

〈東讃ブロック〉
7月9日（日）
13時　＊養成講座「病者訪問」

〈小豆島町教会〉
高山右近祭
7月30日（日）
12時　献茶式・京都西行庵 花輪竹峯庵主
13時30分　ミサ
14時45分　親睦と交流

TSC高松教区サポートセンター
東日本大震災大船渡支援
献金入金報告（含お米券）
（4月20日～6月20日分として）
3万円
累計（6月20日現在）
1千710万1392円

編集後記

季節も初夏、梅雨となり、時は淡々と移り過ぎています。そんな中でも教区は経済問題や信徒養成等の重要案件に真剣に取り組むことが求められているようです。そして教区の経済状況は私たち信者にとって、手をこまねいていられる状況ではないようです。教区報次号では教区会計報告書の掲載を予定しています。キリストの体であるこの教区がどんな痛みを有しているのかを知り、私たちに何が出来るのかを考えることも私たちの大きな責務といえるでしょう。　（J）

神を観想し、
その実りを人々に伝えよ
聖ドミニコ宣教修道女会

私たちは、自分を創造しようとするこどもをまなび、護りましょう
暁の星学園
鳴門聖母幼稚園　高知聖母幼稚園
阿南聖母幼稚園　海の星幼稚園